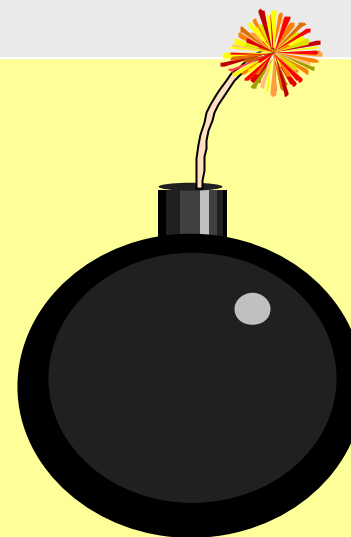


JFMA

リスクマネジメント部会報告

リスクマネジメントシステムの標準化



2001 / 6 / 28

JFMAリスクマネジメント研究部会

企業を取り巻くリスク

リコールの実態

| 番号 | 届出番号 | 届出日 | 通称名 |
|----|-----------|------------|-------------------|
| 1 | リ 国-747-0 | 2001/05/31 | [VFR800P] |
| 2 | リ 国-742-0 | 2001/05/30 | [日野リソナー] |
| 3 | リ 国-743-0 | 2001/05/29 | [ワア] |
| 4 | リ 国-743-0 | 2001/05/29 | [ウイング] |
| 5 | リ 外-873-0 | 2001/05/24 | [クラダムSE クーペ/セダ] |
| 6 | リ 外-872-0 | 2001/05/24 | [LS] |
| 7 | リ 外-873-0 | 2001/05/24 | [クラダムSE セダンV6] |
| 8 | リ 外-875-0 | 2001/05/23 | [インスパイアセハ] |
| 9 | リ 国-740-1 | 2001/05/17 | [RVR] |
| 10 | リ 国-740-2 | 2001/05/17 | [RVR] |
| 11 | リ 国-740-1 | 2001/05/17 | [シャリカラテニス] |
| 12 | リ 国-741-0 | 2001/05/15 | [RK160-3] |
| 13 | リ 国-741-0 | 2001/05/15 | [RK250-5] |
| 14 | リ 国-741-0 | 2001/05/15 | [RK350-2] |
| 15 | リ 国-741-0 | 2001/05/15 | [RK120] |
| 16 | リ 外-869-0 | 2001/05/10 | [ラトコ-パ-テイスカワ- V8] |
| 17 | リ 外-870-0 | 2001/05/10 | [ラトコ-パ-テイスカワ- V8] |

犯罪の実態

平成12年上半期の犯罪情勢

(各頁はPDFファイルで作成されておりますので、ご利用いただくにはAcrobat Readerが必要です。)

第1 刑法犯の特征的傾向

- 1 重要犯罪、重要窃盗犯
 - (1) 重要犯罪の認知及び検挙状況
 - ア 認知状況
 - イ 検挙状況
 - (2) 捜査本部設置事件の状況
 - (3) 殺人事件の状況
 - ア 少年による殺人事件
 - ウ 保険金目的殺人事件
 - (4) 強盗事件の状況
 - ア 金融機関対象強盗事件
 - イ 現金輸送車対象強盗事件
 - ウ 深夜スーパーマーケット対象強盗事件
 - (5) 誘拐事件の状況
 - ア 身の代金目的誘拐事件
 - イ 幼児等対象誘拐事件
 - (6) 性犯罪の認知及び検挙の状況
 - (7) ドメスティックバイオレンス
 - (8) 重要窃盗犯の認知及び検挙の状況
 - ア 認知状況
 - イ 検挙状況

企業を取り巻く様々なリスク

火災の実態

ようこそ 消防庁ホームページへ - Netscape

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ジャンプ(Q) Communicator(C) ヘルプ(H)

戻る 次 再読み込み ホーム 検索 ガイド 印刷 セキュリティ 停止

ブックマーク 場所 http://www.fdma.go.jp/ 関連サイト

Home Page Menu

- 「消防の動き」
【平成13年 6月11日更新】
- 新着情報
【平成13年 6月21日更新】
- 災害情報
【平成13年 6月21日更新】
- 消防庁の紹介
【平成13年 4月17日更新】
- 消防庁資料
【平成13年 6月12日更新】
- 消防審議会情報
【平成12年 3月30日更新】
- 消防団のホームページ
【平成13年 4月12日更新】
- 生活密着情報
【平成13年 5月23日更新】
- 災害ボランティア・データバンク
【平成13年 6月13日更新】
- 阪神・淡路大震災園

全火災62,418件を出火原因別にみますと、以下のとおりです。

| | |
|-----------|-----------------|
| 放火 | 7,729件 (12.4%) |
| たばこ | 6,846件 (11.0%) |
| 放火の疑い | 5,981件 (9.6%) |
| こんろ | 5,596件 (9.0%) |
| たき火 | 4,107件 (6.6%) |
| 火あそび | 2,287件 (3.7%) |
| ストーブ | 1,804件 (2.9%) |
| 電灯・電話等の配線 | 1,592件 (2.6%) |
| 火入れ | 1,320件 (2.1%) |
| マッチ・ライター | 1,091件 (1.7%) |
| 配線器具 | 1,020件 (1.6%) |
| 排気管 | 939件 (1.5%) |
| 焼却炉 | 934件 (1.5%) |
| 電気機器 | 915件 (1.5%) |
| 電気装置 | 645件 (1.0%) |
| その他 | 12,289件 (19.7%) |
| 不明・調査中 | 7,323件 (11.7%) |

「ご存じですか～防災ミニ百科～」日本テレビ系で放送

ご意見等は、消防庁総務課広報係までお願いします。kouhou@fdma.go.jp
当ホームページへのリンクは自由です。

あなたの家の防火対策 だいじょうぶですか？

！ 毎年6万件の火災が発

建物火災の約9割が住宅火災。また、半数以上が65歳以上の高齢者。

ドキュメント: 完了。

スタート 統合メニュー \$NavigatorTemplate fo... ようこそ 消防庁ホー... 10:22

最近の放火・殺人事件

消費者金融における強盗殺人放火事件で9人死傷 (5/8 弘前署)

強盗殺人放火事件の情報求む - Netscape

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ジャンプ(G) Communicator(C) ヘルプ(H)

戻る 次 再読み込み ホーム 検索 ガイド 印刷 セキュリティ 停止

ブックマーク 場所 http://www.police.pref.aomori.jp/txt/news/hirosaki.html 関連サイト

弘前市に発生した強盗殺人放火事件の情報をお寄せ下さい

弘前警察署 Tel 0172-32-0111

■消費者金融における強盗殺人放火事件で9人死傷 (5/8 弘前署)

5月8日午前10時50分ころ、弘前市大字田町5丁目2番地の1、株式会社武富士弘前支店に男が押し入り、店内にガソリンのようなものを撒いて「金を出せ」と要求し、要求を断られて店に放火して逃走しました。火は店内全体に燃え広がって同店約102㎡を全焼し、店内にいた従業員9人のうち、5人が亡くなり、4人が火傷を負って病院に搬送されました。

犯人は、

- 年齢40歳～45歳くらい
- 身長160cm～165cmくらい
- 体格は中肉
- 短めの白髪混じりの髪型
- 目がぱっちりしていて、津軽弁を話す男



ドキュメント: 完了。

スタート 統合メニュー \$NavigatorTemp... 強盗殺人放火事... Microsoft PowerP... 10:38

最近の災害事例

台湾の大地震

1999年 9月 22日
台湾中部 (台中県大里市)
マグニチュード 7.1
死者 2000名以上



RM研究部会の活動

オフィスの地震対策

平成 7年 7月 ~ 8年 10月 発行

情報セキュリティ指針

平成 10年 1月 ~ 11年 8月 発行

情報セキュリティシステム

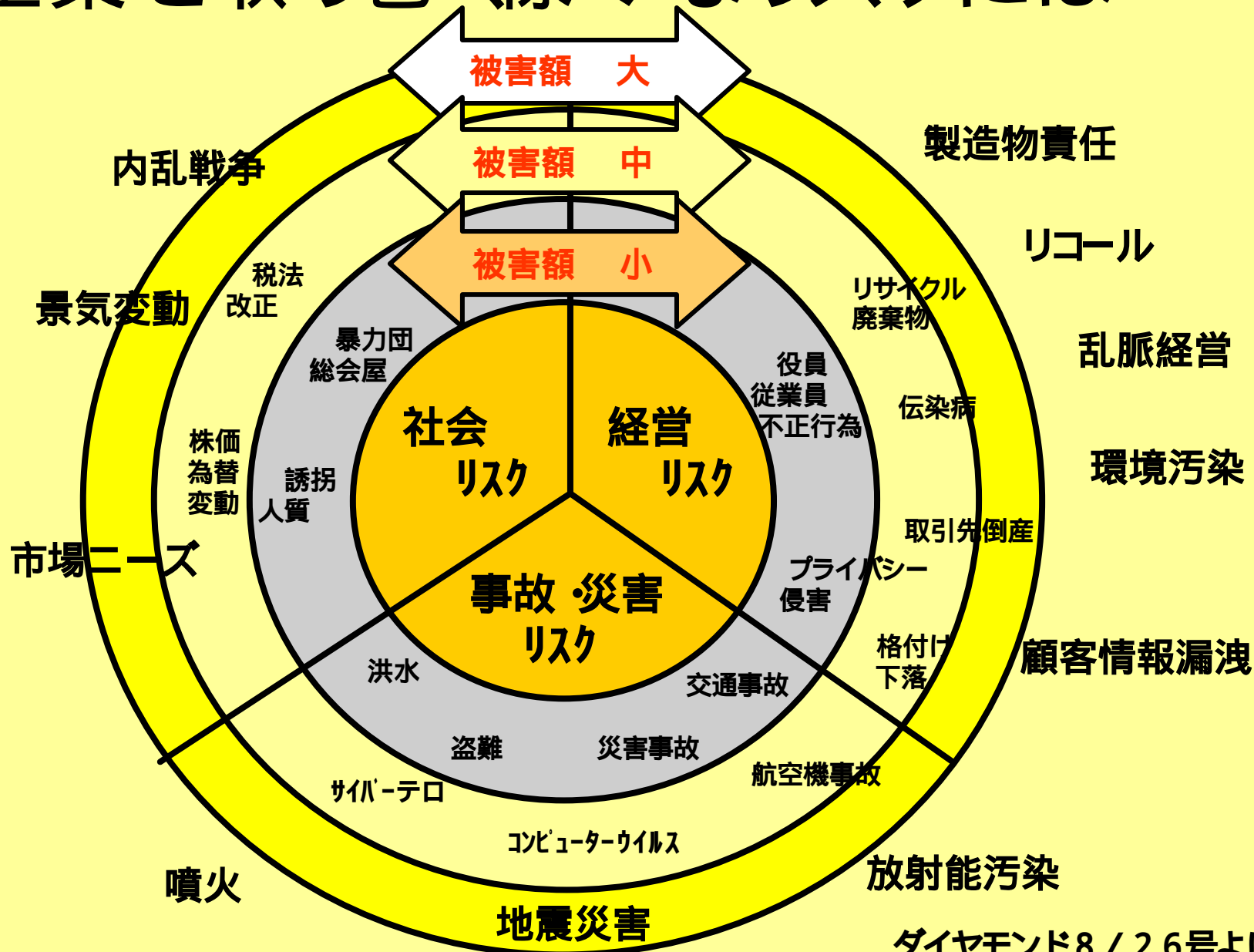
平成 11年 9月 ~ 12年 3月 発行

リスクマネジメント標準化の動向

平成 12年 6月 ~ 13年 2月



企業を取り巻く様々なリスクには



リスクマネジメントJIS化に関して



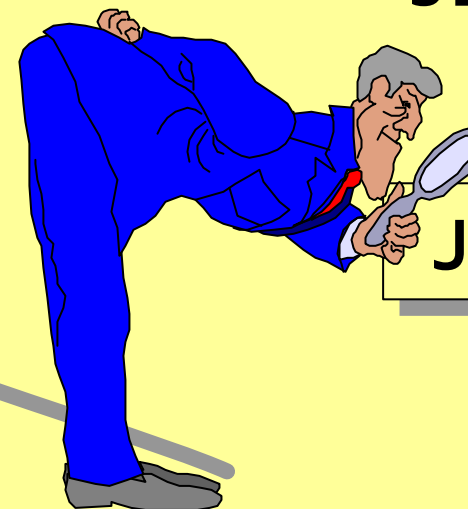
システム規格
の検討



TRZ 0001



TRQ 0001



JISQ2001

JIS規格

2001年 3月

主な管理システム規格(JIS)

- JIS Q 9000 :品質マネジメントシステム 基本及び用語
- JIS Q 9001 :品質マネジメントシステム 要求事項
- JIS Q 9004 :品質マネジメントシステム パフォーマンス改善の指針
- JIS Q 14001:環境マネジメントシステム 仕様及び利用の手引
- JIS Q 14050:環境マネジメント 用語

規格制定までの活動概要

- 危機管理システム規格検討委員会
 - 委員長 :徳谷昌勇 (成蹊大学教授)
 - 事務局 :日本総合研究所

| | |
|-----------------|-------------------------------------|
| 1995年 (平成7年) | ・ 阪神・淡路大震災発生 ・ 危機管理システム規格検討委員会設置 |
| 1996年 (平成8年) | ・ 標準情報TR Z 0001 「危機管理システム」 公表 |
| 1997年 (平成9年) | ・ 標準情報TR Q 0001 「危機管理システム」 公表 |

[注] TRとは“標準情報”のことで、規格としては扱わない。

RMS規格委員会

- 委員長 : 廣井 脩 教授 (東京大学 社会情報研究所長)
- 事務局 : 日本規格協会

| | |
|------------------|----------------------------|
| 1998年 (平成10年) | ・ 「RMS規格委員会」に再編成 |
| 1999年 (平成11年) | ・ RM実施状況及び標準化のニーズ調査 |
| 2000年 (平成12年) | ・ JIS原案起草 ・ 実用性及び有効性の確認 |
| 2001年 (平成13年) | ・ 3月20日制定 (TR Q 0001廃止) |

RM S規格委員会

- 委員会の構成

- 委員長 : 廣井 脩 教授 (東京大学 社会情報研究所長)

- 委員 (28名)

- 〔産業界〕 自動車、化学、建設、保険、商社、電機、鉄道、
電力、ガス、通信、中小企業の団体、シンクタンク

- 〔関連団体〕 研究所、関連の学会

- 事務局 : (財)日本規格協会 技術部 認証規格課

RM S規格の狙い

- 被害の極小化

- 被害の影響は、当事者以外にも波及するので、組織はリスクへの適切な対応を行い、被害を極小化していく必要がある

- 社会全体のリスク対応力を高める

- 社会全体のリスク対応力を高めるためには、それぞれが組織の枠組みを越えて取り組むための指針や取り組みを支える社会基盤の構築が必要である

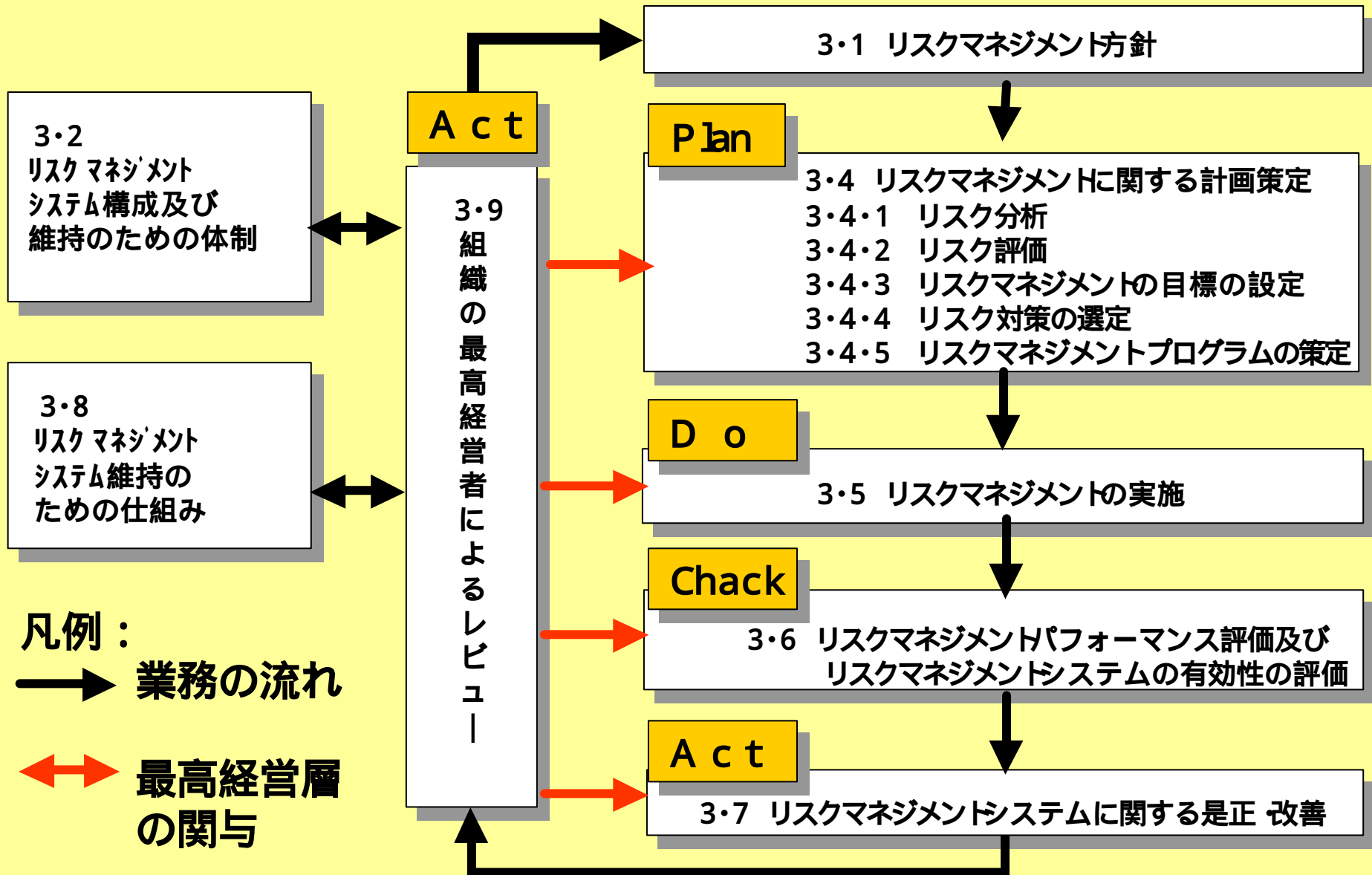
- リスクへの適正な対応

- 規格の最終的な目的は、組織が社会的要請と経済的ニーズとのバランスの中でRMSを確立し充実させてゆくことによって、個々の組織及び社会全体を、リスクに適正に対応できるようにしていくことにある

RM S規格の構成

- システム維持のための仕組み
 - 教育・訓練、シミュレーション、リスクコミュニケーション、情報開示、文書の記録
 - リスク情報の監視及び分析評価、記録、RM S監査
 - 組織の最高責任者によるレビュー

RM S規格の構成・流れ



システム構築・維持のための体制

- R M Sの構築に先立ち、マネジメントシステム
の構築・維持のための体制を整える

組織の最高経営者

- システムの構築及び維持に関して責任をもつことの明確化
- 最高経営者の中からR M S担当責任者を指名
- R M Sを構築・維持するための経営資源の用意
- R M Sのレビュー

リスクマネジメント管理の体制



リスク管理最高責任者

- ・リスク管理活動を統括
- ・リスクマネジメント方針、目的・目標を制定

リスク対策会議

- ・リスクマネジメント活動の審議、見直しを実施する月例会

環境管理責任者

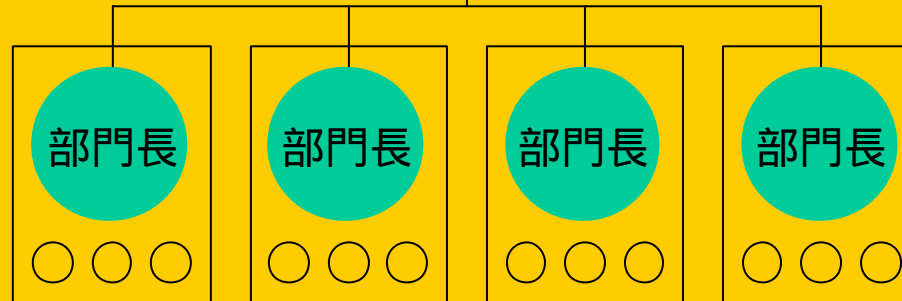
- ・リスク保全活動を推進
- ・全体的な活動計画を策定し、進捗管理する

- ・リスクマネジメント関連文書、記録の管理
- ・外部からの情報公開要求に対応

業務担当長

リスク管理事務局

- ・リスク管理責任者及び各部門長の実務補佐



- ・自部門の活動計画を策定し、進捗管理する

RM S責任者に求める業務

- RM Sに関する計画策定
- RM Sの実施
- RMパフォーマンス評価及びRM Sの有効性評価
- RM Sの是正及び改善対策の策定並びに実施

RM S責任者に求める業務

- RM Sに関する最高経営者への報告及び提案
- RM Sに関連する外部の機関との連絡、
調整及び連携
- RM Sに関連する組織内の連絡及び調整
- RM Sに関連する組織全体の記録作成及び管理

3・1 リスクマネジメント方針



- 最高経営者は、RM方針を定め、
組織成員、関係者に文書で明確に表明する

RM行動指針

- RMの上位概念、あるいは指針。
経営資源の保全・社会的責任の遂行

RM基本目的

- RM Sの運用によって目指す到達点又は結果を示す
- 到達点及び結果は、可能な場合は定量化する

RM行動指針（例）

- 研究開発業務に重大な影響を及ぼすリスクに的確に対処することが当社の永続的发展に不可欠である。このため、リスクの顕在化を未然に防止し、また、万一発生した場合の経営被害を最小限に食い止めることを基本とする。研究・営業・管理スタッフの全てに適用する。



3・4・1 リスク分析

- リスク発見 (全体像の明確化)
 - 被害をもたらす原因及び可能性をもれなく明らかにする
 - 発見手法、リスク発見情報収集方法としては……
- リスク特定
 - 組織に重大な結果をもたらすと懸念されるリスク及び結果の重大性の判断が困難なリスクを特定する
- リスク算定 (特定リスクの特性)
 - 特定したリスクについて、リスクが顕在化する確からしさ (又は発生確率) 及びリスクが顕在化した場合の影響の大きさを定量的または定性的に把握する

3・4・2 リスク評価

- 組織として新たな対策を実施すべきリスクおよび対応の優先順位を決定する
 - リスク基準
 - 予算、実行可能性、対応
 - 影響重大度、緊急対応必要度
- リスク項目の記録と定期的なメンテナンス

3・4・3

RM目標

- RMの目標
 - = RMパフォーマンスの要求事項
- RM基本目的を達成するためにできるだけ具体的に設定する
 - 守るべき対象を明確にしておく
 - 関係者との約束を守る
 - 関係者に悪影響を与えるリスクを軽減する
 - 法的的要求事項
 - 社会通念
 - 組織内外に容易に理解できる
 - 費用対効果を考慮し経営資源の最大限の活用がなされる

RM基本目的・目標 (例)

- 当社はリスクを特定し、JISQ2001に定めるRMSを社内に構築し、維持する
- 社内のファシリティ「人・もの・情報」を守りたえず高度な状態に保ち、顧客が満足する品質を提供する。

| | | |
|----------|---------------|-----|
| 情報システム部門 | システム障害の低減 | % |
| 研究開発部門 | 情報漏洩の可能性の低減 | % |
| 総務・管理部門 | 施設のセキュリティ性の向上 | % |
| 営業部門 | 社有車事故の低減 | %向上 |

3・4・4 リスク対策の選択

- **リスクの特性およびその実施時期に応じて、可能性のある対策を抽出し、そこから適切な対策あるいは対策の組み合わせを選択する**

事前対策、緊急時対策、復旧対策による対策の整理

対策の実施主体、対策内容、組み合わせの可能性、対策効果、対策の影響、対策コスト等による対策の整理

3・4・5 RMプログラムの策定

- 選択したリスク対策あるいは対策の組合せについて具体的RMプログラムを策定
- RMプログラムは組織の経営計画に組み込む
 - RMプログラムとは、対策の整備・運用についての計画で、次の事項が設定されている
 - 組織の関連する各部門及び部署におけるリスク対策の整備日程、整備優先順位
 - リスク対策の整備に際して利用する経営資源
 - リスク対策整備の責任の所在とその責任範囲

3・4・5 RMプログラムの策定 - 2

- RMプログラムの策定に際しては、次の事項を考慮することが望ましい
 - 継続的に実施できるような内容
 - 適切な手順
 - 参画すべきすべての責任ある関係者
 - 定期レビューのために必要な仕組み
 - 利用する経営資源、責任、時期及び対応すべきリスクに対してとるべき対策の優先順位の適切さ
 - RM方針及び一般的な計画活動への対応の適切さ
 - パフォーマンス評価の対象項目、評価者、評価方法、評価基準、結果報告方法等
 - 監視及びレビューの手順

3・5 RMプログラムの実施

- RMプログラムに沿って対策の整備・運用
 - 各部署はRMプログラムに沿って具体的実施手順を作成する
 - 緊急時対応や復旧については、特に注意して対策を整備する
 - その実施手順に従い施策を実施する

 - 実施手順の作成・実施に際しては、関連部署などと調整し、相互に理解を深めておく

 - RM S担当責任者に報告する

3・6 RMパフォーマンス評価

- パフォーマンス評価の指標を設定しておく
 - 客観的、再現性、検証可能性、実行可能性が必要
 - 評価の指標は数値でなくてもよい。評価の主旨
(改善のトリガー、リスクコミュニケーションに際しての証拠等)に沿っていることが重要
- 評価結果に基づき、是正や改善が必要な領域を明確にする

3・6 R M Sの有効性評価

- RM基本目的及びRM目標の達成に対する有効性の評価
 - 有効性評価の指標として，RM基本目的及びRM目標の達成度をとる
 - R M Sの個別機能及び全体機能の有効性について評価を行う
 - R M S担当による自己評価，専門家の協力を得ての評価若しくは第三者による評価でもよい

3・6 RMSの有効性評価

- 有効性評価の時期
 - 定期的なRMS監査結果を受けて実施する組織の最高経営者によるレビューのとき
 - RMSに疑義が生じたとき
 - 自らの組織又は他組織でリスクが顕在化し、重大な被害を受けたとき
 - 是正・改善の実施後、RMS担当責任者がその有効性の検証を必要と判断した場合

3・6 RMSの有効性評価

- 評価結果の管理と活用
 - 結果を記録し,文書管理規程に従って適切に管理
結果をRMS担当責任者に報告する
 - 有効性の向上が必要とされる場合には, RMの計画,
リスク対策及びRMS維持のための体制及び仕組み
を見直して,是正及び改善を要する領域を確定する

3・7 R M Sの是正・改善

- R M Sの是正及び改善は、継続的に行う
 - 是正改善の検討は、関係部門・部署の責任者、専門家など広範な関係者の参画を得て行う。

継続的是正及び改善：

RMパフォーマンス及び運用管理の状況の継続的な監視，測定及び評価結果に基づいて実施する。

RM S監査時：

定期，不定期に実施されるRM S監査に基づいて実施する。

能力・教育・訓練

- 教育及び訓練：
 - 対策実施要員が必要な能力を備えるために実施する
 - 組織が実施する
- 教育・訓練の内容
 - RMの重要性及び知識
 - 組織の構成員の役割に応じた教育項目
 - 要員の現状の能力に応じた教育・訓練
 - 教育成果の客観的な評価

RM S監査

- 監査の目的：
 - 最高経営者におけるレビューに資するため
 - RM Sの継続的な是正・改善のため
 - RM Sが規格の趣旨に則しているかどうかの確認のため
- RM S監査の手順は、次の事項含む
 - 監査する範囲の決定
 - 頻度及び方法の決定
 - 監査人の能力の設定
 - 監査結果に関する関係者の協議

最高経営者によるレビュー

- RMSの維持、有効性の改善のために行う

維持・改善の責任は最高経営者の責任である

- レビューの範囲

**組織のすべての活動にわたり 全体との関連性を見ながら
包括的に行う**

RM文書の作成、文書管理、 記録の維持管理

- RM文書の作成：
 - RMSの構成・機能が、明確になっている。変更があればすぐに修正され、それが、周知できる
 - 必要書類が検索できる
- 文書管理：
 - RMに関する文書の作成・改定の手順を明確にしておく
 - 対象とするリスク毎に、この規格の要請する文書を管理し、維持する手順を確立する

RM文書構造 (例)

- RMマニュアル
- 管理規定・手順書
 - RM方針
 - リスク及びリスク評価・登録規定
 - RMプログラム
 - 緊急時対策規定
 - 緊急連絡網
 - 復旧対策規定
 - RM教育訓練規定
 - RM文書管理規定
 - シミュレーション手順書
 - RM組織図
 - RM職務分掌
- 計画書・記録
 - RM活動計画
 - RM教育訓練計画
 - RMS監査計画
 - RM教育訓練実施記録
 - 外部コミュニケーション記録
 - 緊急対応ファイル
 - RM不適合記録
 - 経営層による見直し結果の指示書
 - 関連文書
 - 用語定義集
 - RMパンフレット
 - 緊急事態事象一覧

グローバル社会へ向けた提案

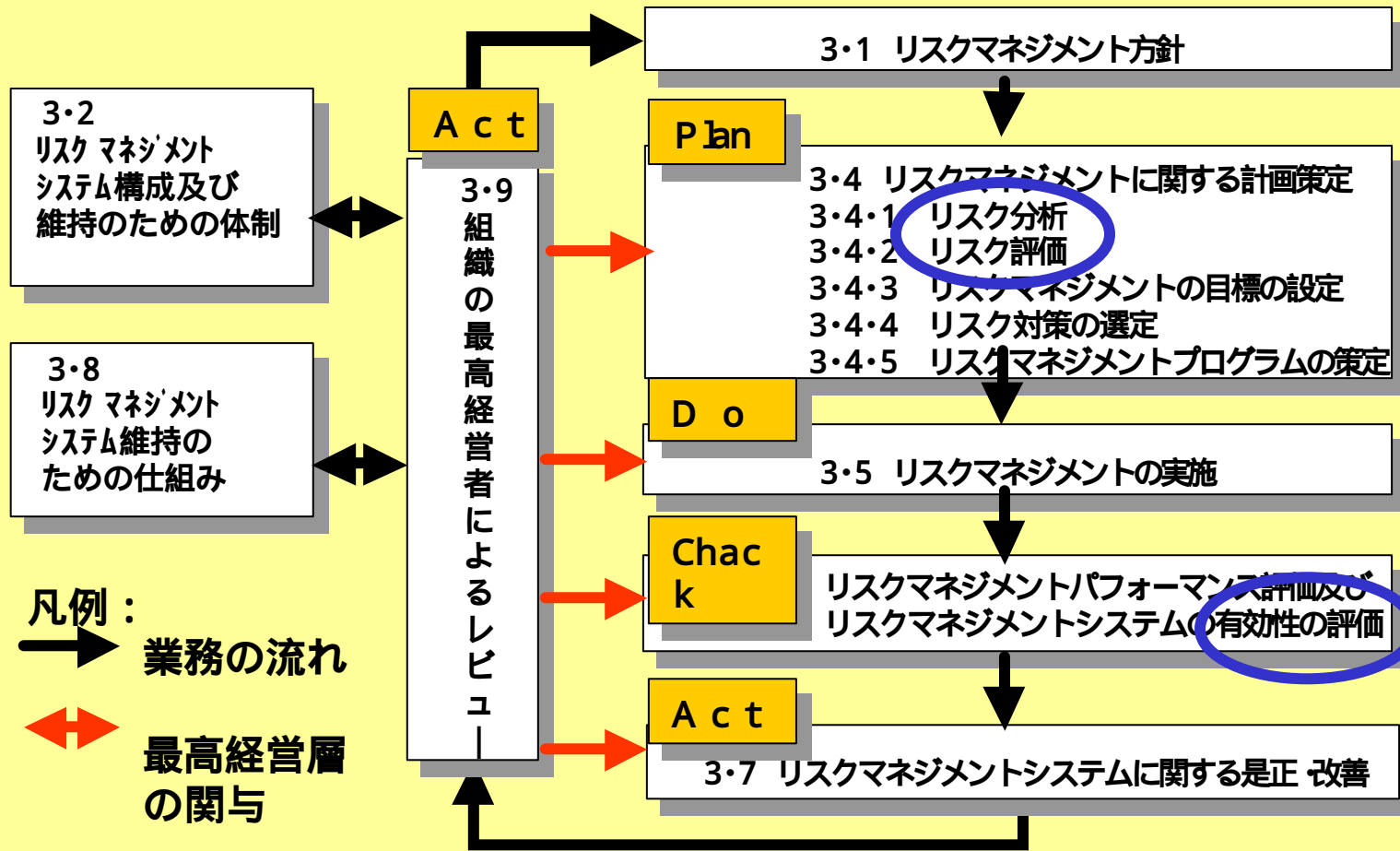
- ISOマネジメントシステムへの拡大
 - 文化、リスク感性の地域的相違を越えた“危機に強い国際社会”の構築
 - カナダ (CAN/CSA-Q850-1997
Risk Management:Guideline for Decision-Makers)
 - オーストラリア・ニュージーランド
(AS/NZS 4360-1995Risk Management standards)

日本工業規格 JIS Q 2001

(リスクマネジメントシステム構築のための指針) 2001年3月

- 各国との連携、各国でのRMの普及

今後の課題



定量的に把握できる仕組み